

### 第3

孤立死防止対策に関し

先進地である松戸市の取組状況

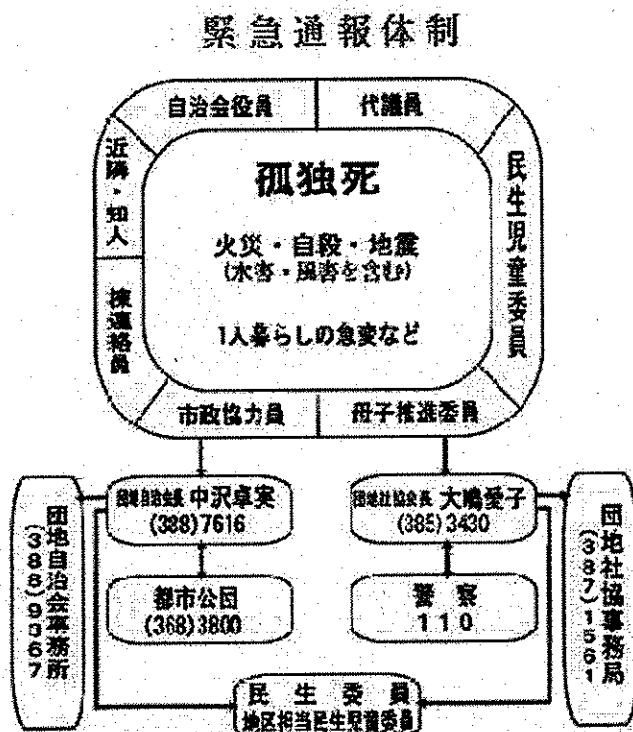
## 1 活動（対策）の実施主体

常盤平団地自治会、松戸市常盤平団地地区社会福祉協議会、民生委員の三位一体の取り組み

## 2 活動内容

### ■ 孤独死対策

#### ● 緊急通報体制（孤独死110番）



緊急通報(孤独死、水害、自殺、地震、雪害、一人暮らしの急変)の対応に、  
【緊急時通報ネットワーク】を活用しましょう。

#### ● 「まつど孤独死予防センター」の設置（H16設置）

事前に孤独死を予防するため、「孤独死予防センター」を全国初で開設し、約20人の民生委員やボランティアが団地内の巡回や相談対応を行っている。

- (1) 常盤平市民センターの一階に設置されており、隣が市の図書室。
- (2) センター設置にあたり、拠点確保として松戸市から建物の一部を無償貸与。
- (3) 団地地区社協と併用し、従来の約4倍広い43.7㎡の広さを構え、相談業務、来客への対応、見守り・安否確認の機能を高めている。
  - ・相談業務従事者：自治会、地区社協、民生委員等のメンバー

平成14年に開設。

“郵便物がたまっている”  
“洗濯物が干しっぱなし”など様子がおかしい兆候に気づいたら役員に通報してもらい、警察や消防と連携して早期発見ができるよう通報体制を整備。

- (1) 緊急事態が発生した場合、緊急通報ネットを直ちに行う。
- (2) 緊急事態とは、孤独死、火災、自殺、地震などの災害、一人暮らしの急変の場合をいう。
- (3) 緊急事態とみられる「うわさ」「通報」「相談」を受けた場合は、直ちに緊急通報する。

●「あんしん登録カード」(H16)

孤独死だけではなく、事件や事故、災害といった緊急時に速やかに対応できるよう、緊急連絡先、かかりつけ医、血液型などを記入してもらい、団地管理事務所と団地社協に保管。

**秘**

市営平塚団地社会福祉協議会 北野日学校18号 月 日  
団地名

**あんしん登録カード**

項目	記入欄	備考欄
電話番号	市区 町区 丁目	
ふりがな		生年月日 明・大・庵・平
契約者本人のお名前	男・女	
ふりがな		生年月日 明・大・庵・平
同居者のお名前	男・女	
本人連絡先	自宅電話 携帯番号	
家族情報 ① ② ③	名前	関係
	住所	
	電話番号	関係
	住所	
	電話番号	
	住所	
かかりつけの医療者	医療機関名 電話番号	血液型 [O・A・B・AB]

・カード記入対象者  
ひとり暮らしの世帯、あるいは心身障害者をもつ家族、その他希望者。

・現在の登録者は、約870人。(初回370人、2回目約500人)

・「50歳以上の単身者」が7割、「65歳以上の夫婦世帯」が3割を占めている。

※お間違いをお知らせ  
○あんしん登録カード丢失後に返還事項に発生した場合には、その旨をお知らせください。  
○この登録カードをコピーして登録者にお渡しします。  
○あんしん登録カードに関するお問い合わせは市営平塚団地社会福祉協議会(団地社協) 電話0457-1261です。

●「いきいきサロン」の開設

平成19年4月、都市再生機構の協力で団地内商店街の一店舗に、家賃の半額で住民同士の交流の場「いきいきサロン」を開設。人々のふれあいと仲間づくりの場。

- (1)来場者：平成19年度(12,903人)、平成20年度(21,893人)【毎月1,500人前後】
- (2)運営体制：常時2名体制
- (3)経費：店舗家賃月額約6万円
- (4)財源：自治会3万円、団地社協3万円の負担で家賃分に充てる。
- (5)営業時間：11:00～15:00
- (6)その他：入場料は1人100円。お茶やコーヒーが無料で飲み、食べ物の持ち込みも自由。1Fはソファのあるサロン、2Fは6畳の和室が2室あり会合やサークル活動にも開放。禁煙・禁酒が規則。約20名の主婦が世話人となり1時間200円の有償ボランティアとして、毎日2名体制で運営にあたる。毎日30～40名の利用者が訪れている。

●安否確認（H6～7年度）

ア 事業概要：見守り活動の実施  
イ 内容：民生委員による「助け合い活動」として平成6～7年度にかけてスタートさせた。  
この活動では、65歳以上のお年寄りや障がい者を対象に「部屋に明かりはついているか」、「新聞や郵便物がたまっていないか」などをチェック。

●孤立死防止に向けたネットワークづくり

常盤平団地自治会、地区社協などによるネットワークの構築  
(1)緊急通報体制の整備  
(2)新聞販売店やカギ専門店との協力体制 等

●相談窓口の整備（H15.9）

福祉よろず相談（まつど孤独死予防センターに開設）

（相談内容）

（1）電話相談

- ・平成20年度実績：132件
- ・専用電話による相談

（2）対面相談

- ・平成20年度実績：39件

（その地）

高齢者支援事業の一環として実施

●普及啓発活動

（事業概要）

ア パンフレット・リーフレット等の作成・配布  
「孤独死」に関する冊子の作成、発行等

イ 講演会・講座・教室・シンポジウム等の開催

年1回「孤独死を考えるシンポジウム」の開催（平成14年～）

※常盤平団地孤独死を考えるシンポジウム実行委員会

（構成団体）

常盤平団地自治会、常盤平団地地区社会福祉協議会、  
常盤平団地民生委員児童委員協議会、  
常盤平団地老人クラブ「ときわ会」、常盤平環境会議 等

ウ その他

- ・常盤平団地地区社協会報紙の「福祉ネットワーク」の発行
- ・自治会会報「ときわだいら」の発行（毎月全戸配布（両駅掲示））
- ・ホームページへの掲載

●その他

ア) 各種（高齢、地域福祉等）計画への登載の有無

(1) 千葉県「地域福祉支援計画」

登載内容：＜孤独死の実態把握＞

県と市町村の連携のもと、警察、住宅管理団体、民生委員・児童委員等の協力を得て孤独死の実態把握を進めます。

特に孤独死の場合には、早期発見・早期対応が重要であり、予防策については、県や市町村、地区社会福祉協議会等が協働して取り組むことが重要です。

(2) 千葉県高齢者保健福祉計画（H18～H20）

常盤平団地の「孤独死ゼロ作戦」をコラムとして登載。

(3) 松戸市地域福祉計画（H18.3）

常盤平団地自治会の「孤独死対策」を活動事例として登載。

イ) 関係団体との連携

（早期発見・早期対応）

(1) 新聞販売店との協定（H14.9）

新聞配達の際に、新聞がたまっているという異変又は何かの異常に気づいたら、速やかに団地社協又は民生委員宅へ連絡するなどの協力体制を整備。

孤独死予防対策について

協定書

常盤平団地孤独死予防対策に協力する一環として、次の詳細について鋭意協力することとします。

記

1. 新聞配達の際に、異変または異状を察した世帯については、すみやかに団地社協（電話367-1561）または民生委員宅（2階廊下15号室）へ連絡することとします。
2. 常盤平団地内の地域ぐるみ福祉については、団地社協が必要な資料の提供を行うなど相互の理解を深めることに努めます。

(2) カギ専門店との覚書（H15.9）

孤独死と疑われる問題が発生した際には、カギ業者は人命を最優先にカギの取り扱いについて協力するもの。いざというときには24時間カギを開けてもらえるよう覚書を結んでいる。

（ゴミ処理対応） 市環境清掃協業組合との協定

団地に居住する身寄りのない人が孤独な状態で死亡した場合、自治会の要請があれば、その人の家に残されたゴミなどを組合が無償で収集運搬する。（常盤平団地自治会、協業組合、市の三者協定）

### 3 今後の課題

(中沢卓実 常盤平団地地区社会福祉協議会事務局長)

- 高齢化や近隣関係の希薄化、核家族化という従来の課題に加え、長期不況による失業者の増加、産業構造の変化、家族関係の崩壊という新たな問題は、ますます「孤独死」を増やす要因となることは間違いないこと。
- 今後、全国的な実態把握を実施し、本格的な対策を取っていく必要があるが、行政任せ、人任せではなく、住民が自分たち自身の手で取り組むという姿勢が重要であり、それが地域福祉でということだと考える。
- 地域包括支援センターの事業と連携強化  
介護予防に欠かせないのが地域包括支援センターによる事業であり、地域内の在宅介護支援センターと連携を深め推進していく必要がある。
- 行政と市社会福祉協議会、団地地区社会福祉協議会の協働  
県の「地域福祉支援計画」、松戸市の「地域福祉計画」等を踏まえ、協働の関係を重視していく必要がある。
- 団地地区社会福祉協議会では、「孤独死ゼロ研究会」をつくり、NPO法人として立ち上げる準備を進めているところ。

# 孤独死対策の関連図

